



[クローズアップ]

環境にやさしい 農業をめざして



エコファーマーなどの認定を受けた農業者と関係者



エコファーマー認定証交付



特別栽培農産物の認証通知書交付



農業経営改善計画認定書交付

■エコファーマーとは…

堆肥を活用した土づくりと化学肥料、化学合成農薬の使用を減らす(20%)ことを一体的に行



エコファーマーマーク

う「導入計画」を策定して、知事の認定を受けた農業者を「エコファーマー」といい、エコファーマーが計画に基づき生産した

農産物を「エコ農産物」と呼んでいます。「エコ農産物」には、全国環境保全型農業推進会議が作成した「エコファーマーマーク」をつけて販売することができます。
●対象農産物・穀類、そば、野菜、果樹、花きなど43種類7,506品目

■特別栽培農産物とは…

県が定めた化学肥料と科学合成農薬の両方を地域で一般的に使用されている量

より50%以上減らして栽培された農産物のことをいい、認証を受けると「県の認証票」をつけて農産物を販売することができます。

●対象農産物・米、大豆、えごま、トマト、インゲン、だいこん、なす、にんじん、はくさい、かぼちゃ、もも、りんごなど49種類



認証票

村の自然条件を活かし
安心、安全な農産物を

平成十六年度からスタートし

た「豆で達者な村づくり」事業では、大豆やじゅうねん(エゴマ)などの栽培を通して、遊休農地の解消や、高齢者の生きがい・健康づくり、特産品の開発などを目指し、「豆腐や味噌などの大豆加工品の開発や村農産物加工・直売所」「手・まめ・館」のオープン、大豆・じゅうねん作付者の医療費の減少など、効果を上げています。さらに、村内産の農産物を学校給食などに供給する「地産地消」の推進や、小・中学生、分校生の大豆栽培(農業体験、炊飯給食など)を通して「食農教育」の実施、都市との交流事業など、さまざまな分野に広がりを見せています。

また、村では鮫川村の地理的、気候的に不利な条件を逆手にとり、「源流の里のきれいな水」「澄んだ空気を売りに、「低農薬、減化学肥料」にこだわった「安全、安心な農産物」の生産を推進。堆肥舎を活用した良質な堆肥づくりの研修や、環境にやさしい農業を目指す講演会・研修会の実施、計画書の作成支援などを通して、「エコファーマー」や「特別栽培農産物」の認証農家(団体)の育成を

図っています。

エコファーマーが62人
特別栽培農産物は1団体に

「福島県持続性の高い農業生産方式導入計画」(以下エコファーマー)とします。認定証、「特別栽培農産物」認証通知書、「農業経営改善計画」(認定農業者認定書の交付式は十月十二日、役場正庁で行われました)。

交付式では、大楽村長のあいさつに続き、山形農林課長が村の取り組みなどこれまでの経過を報告したあと、三つの認定書(証)の交付が行われました。

今回、エコファーマーの認定を受けた方は、九月二十九日に県南農林事務所で行われた認定審査会で承認を受けた四十六人(認定面積：三千九百八十八・六ア、認定品目：水稲(コシヒカリ、チヨニシキ、ひとめぼれ、ふくみらいなど)で、既に認定されているエコファーマーと併せると六十二人(認定面積：五千七百八十三・六ア)となります。

今回の認定により、エコファーマーが生産した農産物は「エコ農産物」としてマークを付けて販売することができます。生産者の環境保全に対する意識の向上も期



環境にやさしい 農業をめざして

[クローズアップ] エコファーマー認定証、特別栽培農産物認証通知書、認定農業者認定書交付式

待されます。

また、特別栽培農産物の認証を受けたのは、西山環境にやさしい米づくり推進組合(高野博光代表・組合員九人)で、認証面積は五百七十二・七ア(「認証品目：水稲(ひとめぼれ、コシヒカリ、農林21号など)となりました。特別栽培農産物は、エコファーマー以上に化学肥料や農薬の使用を減らすことが求められ、生産した農産物には県の認証票を付けて販売することができます。

併せて農業経営改善計画認定書(認定農業者)の交付も行われ、計画の継続を認められた六人の農業者と、計画の変更を認められた二人の農業者に認定書が交付されました。

交付式の後、小野博福島県農林事務所長、堀川信四郎鮫川村協定間協定協議会長、白坂和美JA東西しらかわ東部営農センター長、芳賀逸義アグリニュー鮫川会長が祝辞を述べました。

引き続き、県南農林事務所農業普及部の岡崎徹哉主査が「環境にやさしい農業の栽培について」と題し講演。「エコファーマー」や「特別栽培」、「有機栽培」の違いや、農業や堆肥の施用方法について説明し、参加者は熱心に耳を傾けていました。